

# 海外自治体幹部交流協力セミナー2016（ロンドン事務所管内） 地方交流事業概要

テーマ：東日本大震災からのまちづくりについて

海外参加者数：8名

日程：

日程	内容
1月11日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いわき市表敬訪問</li> <li>○行政説明： <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわき市における震災後の住宅政策</li> <li>・原発避難自治体からの住民受入れ対策</li> <li>・洋上風力発電所の再生可能エネルギーへの取り組み等</li> </ul> </li> <li>○視察・講義：常磐共同火力発電所</li> </ul>
1月12日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○視察：農産物モニタリング検査（JA 第一営農経済センター）</li> <li>○視察：ワンダーファーム</li> <li>○視察：白水阿弥陀堂</li> <li>○文化体験：金澤翔子美術館</li> <li>○講義・視察：常磐興産の取り組み「炭鉱から観光へ」 会場：スパリゾートハワイアンズ</li> </ul>
1月13日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○視察：いわき・ら・ら・ミュウ <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災記録展</li> <li>・洋上風力交流センター</li> </ul> </li> <li>○視察：豊間・薄磯地区（高台移転、集団移転地）</li> <li>○意見交換会</li> </ul>
1月14日（土）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○視察：ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）</li> </ul>

## 【1月11日（水）】

### （1）いわき市表敬訪問

いわき市長をはじめ特定政策推進監及び観光交流室長より歓迎の意が表された後、参加者と歓談をされた。歓談では、2020年の東京オリンピックが及ぼす東日本大震災からの復興と今後の観光につながる可能性について話があり、2012年のロンドンオリンピックを参考に意見交換が行われた。最後に、参加者団長より訪日団受入れへの感謝の意が表された。



(2) 行政説明：いわき市における震災後の住宅政策、原発避難自治体からの住民受入れ対策、洋上風力発電所の再生可能エネルギーへの取り組み等



いわき市による行政説明

セミナーテーマに関係するいわき市計10課より概況及び市の取り組む観光や復興に関するまちづくり、地域レベルでいわき市特有な施策（原子力防災体制、農業・水産業における風評被害対策）の概要について説明を受けた。参加者からは、英国内自治体の状況や抱える問題に比べ、日本の自治体制の中で企業との連携が整っていると総合的な意見があった。

(3) 視察・講義：常磐共同火力発電所

燃料炭の運輸から施設全体の働きをについて講義を受けた後、作業現場の視察を行った。火力発電所の面積は、燃料炭の保管場所も含むため歩き廻るには広すぎるが、日々の発電に纏わる燃料炭量、管理システムが想像よりも小規模な現場に参加者は衝撃を受けていた。



常磐共同火力発電所視察

【1月12日（木）】

(1) 視察：農産物モニタリング検査

(JA 第一営農経済センター)

農産物モニタリング検査では、主に東日本大震災以降の放射能測定手順をはじめ、農産物が畑から売り場まで届く行程の説明を細かく受けた。参加者は、実際にモニタリング作業を拝見することで、一つの農産物検査にかかる時間と手間に驚きを覚えていたものの、「いわき市で提供される料理は安心していただける」と視察効果が伺える感想もあった。



農産物モニタリング放射能検査視察

(2) 視察：ワンダーファーム

トマト栽培の技術及び加工工場の視察をした。ワンダーファームで育てた野菜やトマトジュースを試食させていただき、事前に農産物モニタリング検査を見学した参加者は、栽培技術の地道な作業に感銘を覚え食材によりありがたみを感じたようだった。いわき市内における最新施設（2016年2月開園）のなかでも、ビュッフェレストラン、直売所、カフェ、加工工場、ガーデン、農園里山、多目的イベント広場等と観光要素が様々で、観光客のみならず地元の人々を呼び寄せるいわき市の魅力が揃っているとの声が多数あった。



ワンダーファームトマトハウス視察

### (3) 視察：白水阿弥陀堂

国宝白水阿弥陀堂では、手水や参拝の作法、マナーなどを学び、雪こそは積もっていなかったが冬の静けさを上回る日差しと日本庭園が生み出す独特な空気に囲まれ、館内を廻った。願城寺内も見学することができ、参加者は寺院用仏具に興味を持たれていた。



白水阿弥陀堂視察

### (4) 文化体験：金澤翔子美術館

日本の歴史と文化（着付け、茶道、書道）の歴史をはじめ金澤翔子の紹介及び美術館設立までの経緯について説明を受けた。文化体験の中でも、本格的な着付けや書道の指導を受けるのは初めてだった参加者が多く、真剣に習字の練習を繰り返していた。それぞれ、日本扇子に「心」と言う字を書きとめ、「ひと時ながらも『和』の心を実感でき日本の魅力あふれる時間となった」と参加者より満身に満ちた感想があった。



着付け体験



書道体験

### (5) 講義・視察：常磐興産の取り組み「炭鉱から観光へ」

会場：スパリゾートハワイアンズ

常磐興産の取り組みについて講義を受け、参加者の一番印象に残る講義となった。「炭鉱から観光へ」というコンセプトに、イギリスでこのような事例はないと感心された。また、スパリゾートハワイアンズ館内視察の際に、壮大な設備とアトラクションの完成度はもちろんだが、設立当時の意図、東日本大震災当時の支援対策と立ち直りの速さ、そして現在も続く地域を活かした復興に向けた試みに感激されていた。



常磐興産による講義



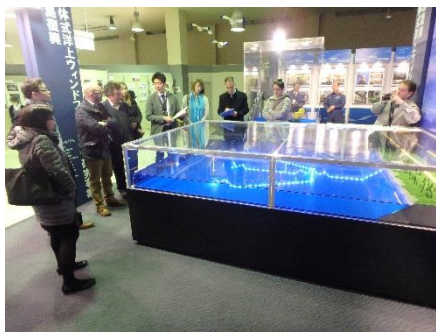
館内を盛り上げるアトラクション



## 【1月13日（金）】

### (1) 講義・視察：いわき・ら・ら・ミュウ（東日本大震災記録展、洋上風力交流センター）

東日本大震災展及び洋上風力発電実証研究事業紹介コーナーの紹介と施設全体について説明を受けた。豊間・薄磯地区津波災害地の視察に向けて適当な導入になり、災害当時の映像や写真に参加者は唖然としていた。一方で、津波による被害を受けた施設ら・ら・ミュウの立ち直りに感動され、いわき市の新鮮魚介類市場やお土産コーナーを基盤にした観光物産センターとしてさらなる復興に期待が高まり、現在の取り組みについても参加者は興味を示していた。



洋上風力交流センター



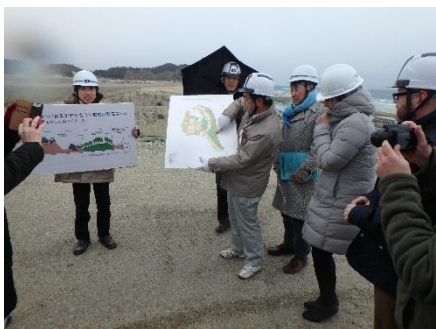
いわき市の海産物を試食する参加者

### (2) 視察：豊間・薄磯地区（高台移転、集団移転地）

豊間・薄磯地区の津波被災地は、参加者が最も感銘を受けた視察先であり、セミナー中で雨風が一番激しい時間帯であったため、より現場の厳しさや当時の状況を想像させられた。市の職員から震災前と工事後のイメージについて説明を受け、以前避難者が居住していたアパート内を見学した。参加者は、現在でも更地に近い状況を見渡し、公営住宅の自治会長との歓談では、自治会長をはじめ住民の地域に対する想いに心を揺さぶられつつあった。



豊間・薄磯地区（高台移転）



海岸堤防嵩上げ工事視察



公営住宅の自治会長と歓談

### (3) 意見交換会

いわき市職員と参加者間で行われた意見交換会では、視察の全行程を通して参加者が感じたことについてそれぞれ感想を述べたほか、疑問に思ったことやいわき市からの意見等について質疑応答が行われた。参加者は、災害を観光へ、また観光から復興へのきっかけにつなげる取り組みも意義あるが、震災以前からのいわき市そのものにもともと魅力があるので、被災地としてこだわる必要はないと述べ、改めた視点でいわき市を見直すきっかけになったと職員も感動されたようだった。いわき市からも、イギリスにおけるタバコ禁煙の対策について質問するなど、互いに実りある充実した時間になった。



意見交換会の様子

### 【1月14日（土）】

#### (1) 視察：ふくしま海洋科学館

(アクアマリンふくしま)

小名浜の沖沿いに位置するアクアマリンふくしまとその近辺の視察を行い、震災当時の様子と閉館から開館までの経緯についてお話をいただいた。地震の影響もあったが、津波により地上1階が水没したため、津波による損傷の方が大きく、現在工事中の箇所における今後の展開について説明を受けた。しかし、震災からわずか4か月ほどで開館したアクアマリンふくしまは、綺麗に再構築されており、津波の影響が一切見られない館内とイキイキとした水生生物の観察に参加者は目を囚われていた。



アクアマリンふくしま視察